

# UIFA JAPON NEWSLETTER

## ■主な内容

UIFA JAPON 2002 年度通常総会開催  
 記念講演「林・山田・中原設計同人の44年間」報告  
 海外交流の会報告-母を案内したい明日館  
 -四寸勾配と切妻の屋根  
 「女性と建築展」トークセッション  
 -共働きの視点から見た住まいとまち  
 -仕事と家庭の両立におけるコミュニティの可能性  
 ユニバーサルデザインを考える  
 建築家林雅子展のご案内  
 役員会報告



中原新名誉会長と小川新会長



懇親会にて

## UIFA JAPON 2002 年度通常総会開催

雨模様の6月29日(土)13:30から、五反田ゆうぼうと5階研修室「かたくり」にて、第10回総会が開催された。出席者33名、委任状42通をもって総会は成立、以下の議案について審議が行なわれ、いずれも原案通り可決・承認された。創立10周年を迎える今年度から、中原会長が名誉会長に、小川副会長が会長に、ド・ラ・トゥール名誉会長が特別名誉会長に就任した。

- ① 第1号議案：2001年度事業報告および収支決算
- ② 第2号議案：役員選出（新役員構成）  
 名誉会長：中原暢子  
 会長：小川信子 副会長：正宗量子、松川淳子  
 理事：総務—高橋和子、柳澤佐和子、日高たか子、中井和子 事業—山田規矩子、吉田あこ、吉田洋子 広報・渉外—渡辺喜代美、須永俣子、中野晶子 会計—栗山楊子、飯田とわ 会計監査—飯島静江、東由美子
- ③ 第3号議案：2002年度事業計画および収支予算  
 2002年度の活動として、10周年記念事業が計画されているほか、他団体との交流会や「この指とまれ」の活性化などが挙げられた。

総会に先立ち11時半より同会館8階のレストラン「シェンザール」にて役員交流の昼食会があり、中原先生、小川先生をはじめ新旧役員が一同に会した。また、総会後は記念講演会として中原名誉会長の「林・山田・中原設計同人の44年間」と題した講演があり、貴重なお話を聞かせていただいた。その後17時まで、同会場において懇親会が催された。講演会に参加された植田実氏を交えて賑やかな歓談が続き、新しい体制によって新たな展開が期待される雰囲気なかで総会の行事は終了した。

(田中)

## 記念講演「林・山田・中原設計同人の44年間」報告

板東みさ子

1954年頃学生の吉田あこ氏は「建築家中原暢子」に初めて出会った。颯爽たる風貌は今でも印象に鮮やかと言う。吉田氏は進行役としてエピソードの玉手箱を巧み

に開け「中原暢子」像は次第にくっきりと浮かび上がって来た。

UIFA JAPON が、中原氏のUIFA 発会式への出席(1963年フランス)に端を発したことも含め、興味深い話の数々。氏の女学校時代は「学校工場」での少年飛行兵の服作りの日々。そして終戦。価値観の変化の中で氏は自立しようと武蔵工業大学に進学。入学して男女の歴然たる学力差に驚いたという。『最小限住宅』に感銘を受け池辺陽氏の研究室へ。

1957年横浜の婦人団体からPODOCOに仕事が来た。林雅子、山田初江両氏と翌年『設計同人』設立。誰かが1級建築士の資格を、から始まる。先輩の浜口ミホ氏に相談したが「とにかく税金が払えるようにならなくては」と。一番に経理士(会計士)を頼んだ。そして弁護士。その方々とは今だに交流があるとのこと。

UIFA 設立時、参加のために渡仏。その後9ヵ月滞在し、設計事務所で働いた。様々な仕事に関わる内「シャモニーの村を任せる」との話が来た。さし出された契約書に「最低20年間」とあったので翌日辞表を書いて帰国。「フランスでは日本と建築家の扱いが異なり、尊重してくれる。あのままやっていた方が良かったかな?」と。

当日配付された御自身の作品資料に寄せてコメントを戴いた。人間そして生活をきちんと見ること、を設計の根本に置いておられると感じた。

設計同人についての質問に対し、闊達に回答してくださった。三人三様のスタイルと相互理解を保ちつつ「共同は経営と場所と所員のみ」「発言権は1/3、我慢が2/3」「つまりは明日のことは分からないのである。現在ベストを尽くすのみ」「設計料はきちんと戴く」が基本であった。今年3月に閉じるまで「給料の遅配44年間無し」であり、設計料の取り立てなど嫌な思いも随分したが、1人でなく3人でやっていたので可能となった、等々。

吉田氏が「コンサルタント料をお払いしなくては…」と締めくくられたように、参考になるお話を多々聞くことができた。フランスでの恋物語は?との質問だけは懇親会の席へと持ち送られたのだが…。

## ■第27回 海外交流の会報告 母を案内したい明日館

公文式不動前教室主宰 佐々木康子

### 空間の豊かさに感嘆

人生は予期せぬ事が起こるものだ。私事になるが「ライトの建築作品の自由学園明日館見学に行かない？」と、我が家を設計して下さった正宗氏のお誘いを受けた時、誰が後で原稿を頼まれると思うだろうか。会員ではない方にと言われ、断るのが不得手な私は引き受ける破目になったのだ。ところが、今回の見学は大満足だった。広い芝生の向こうに大谷石を使った明日館の佇まいを見た時、「あっ、ライトだ！」と感動しながら屋内に入る。その空間の豊かさに“天才だ！”とまた感嘆した。

80年前に自由学園の子供達が学んだ教室で、元工学院大学教授南迫哲也氏のお話を伺う。先生のご説明は専門外の私でも解かり易く興味深いものだった。先生は、明日館保存の為に熱心な活動を続けられ、バブル崩壊のお蔭でこの館の修復が出来たのだと言われた。

ライトは、羽仁夫妻が設計依頼をした時、1887年にライトの叔母のヒルサイドホームスクールを設計した事を思い出したそうだ。そして、夫妻の教育観に共感してこの設計を受諾したと言う。1900年設計のダナ邸には浮世絵が飾られ、日本美術に大きな関心を寄せていた様子が伺えた。私の実家にあるヤマギワ製照明器具と同じものがOHPで映された。シンプルで美しいデザインは、時代も国も問わないのだなあと感じた。

1903年設計のラーキン会社ビルは、吹き抜けに既に重力暖房の床暖房が設備しており、また1906年のロビー邸では風呂場の床に電気暖房を設置してある。我が国の技術では最近の普及なのに凄い事だと思う。1910年代から1930年初めにかけては彼の不遇時代と呼ばれる。最初の妻との離別、召使の放火殺人によるチェニー夫人と子供の死等身辺にトラブルが続発。不況も重なり仕事は少なかった。この間の作品が、1914年からの帝国ホテルと1921年の自由学園明日館である。

### 時代と精神の融合した作品

両作品も彼のブレイク時代の東洋哲学への傾斜による水平性に加えて、明日館の両翼棟は憩いの大芝生を抱いた空間だし、帝国ホテルの客室両翼に囲まれた中庭と社交空間は、共に内部から外部への心理効果を生んでいる。世間が不況時代だった事と、彼の精神的な不遇時代が重なったからこそ日本に作品が残せたのかなあと、ふと思ったりした。

1935年、落水荘と呼ばれるカウフマン邸と、1936年ジョンソンワックス本社の二つの優れた仕事により奇跡的な復活を遂げたが、J.ワックス社のエアドームのアイデアは洗濯屋さんからの発想だし、タリアセンウエストは石の持つ秘熱をさそりに習い輻射暖房として設計に生かした。1948年のケネローンハウスは、バリアフリーで車椅子可能な家で、彼の先見性と研究心の旺盛さに驚く。

1959年92歳で没する迄、高い技術文明を駆使し自然の土壌に根付いた有機的建築を設計し続けた20世紀の巨匠ライト。明日館が重要文化財の指定を受け保存修理され完成し、一般公開された事は何とも嬉しい。90歳になる私の母が、昔、明日館が新築された頃、何回か行ったことがあると懐かしがっているの、早速案内したいと考えている。

## 四寸勾配と切妻の屋根

福井 綾子

### 子どもたちの姿が浮かぶ回廊

第20回海外交流の会に参加し、当時修復工事中の明日館を見学したので、今回も申し込みました。当日は見学だけで、南迫哲也先生のお話をうかがうことはできませんでした。

配布された資料を片手に、道路をはさんで反対側にある講堂の方に先に行きました。ちょうどこの日のコンサートの練習中でした。2階から庭を見渡すと、道路の存在を忘れさせ、一体感がありました。西教室棟から、アプローチしたところで、見学者と合流しました。各教室の開口部は、目線が低く押さえられているせいか、落ちつきがあり集中できる場所、という印象をもちました。ハイサイドライトの影響も、あるのではないかと感じました。

一歩、教室を出た回廊の突き当たりから、西教室棟の教室の方を振り返った時、当時の子どもたちの姿が浮かびました。その瞬間、シャッターを切りました。



左 東教室棟の回廊  
右 講堂を見下ろして

### 四寸勾配の疑問

講堂に入り、2階のギャラリーを想像しながら、説明を受けました。食堂は、全体の他に、元バルコニーだったところも小さな食堂になっています。北小食堂がアルコーブ的になっていて、天井も低く押さえられていて、ここは子どもたちにもきっと人気があったのではないかと思います。

食堂から半階上がるとギャラリーがあり、そこから下を見下ろせません。ここは普段は立ち入り禁止ゾーンのように思えたのですが、もし、いつでも出入り自由であれば、お互いに声をかけあい、或いはひとり静かな気分になりたい時や、友達を遠くからながめていたい時にここに来たいような場所でした。

この屋根の勾配がとても重要な要素をもっている、と思いました。図面を拝見すると、四寸勾配でした。この勾配のラインがモチーフになっていて、椅子や開口部、建具、照明に反映されていました。

なぜ、五寸勾配でなく、四寸勾配なのでしょう？ この屋根勾配は、吉田桂二先生の設計にも共通しているように思いました。『四寸勾配と切妻の屋根のライン』というこのかたちはとてもいいプロポーションだという印象を強くしました。

写真提供 福井綾子

## ■「女性と建築展」トークセッション参加記

女性と仕事の未来館で開催されている「女性と建築展」のイベントとして、5月25日と6月22日にトークセッションが行われました。

5月25日 共働きの視点から見た住まいとまち  
宮本伸子

### 共働きの生活、イキイキと

この日のゲストは早瀬鏡一氏。元川鉄鉱業(株)勤務。現在は「職業と家庭生活、男の家事」の評論家、そして、主夫業と銘打っておられる。著作である「夫が書いた失敗しない共働き12の方法」は、タイトルからしても日本では希有の存在と肯かれることと思うが、当日のトークの内容も、そのエッセンスが凝縮されたもの。ご自身の住まいの変遷とともに共働きを重ねてこられた状況を生き生きと語られた。



早瀬鏡一氏

「共働きの情報というのはなかなか流れないが、典型的な共働きの姿などはない。妻の海外赴任に伴う父子家庭を2年間×2回やった。忙しさは確かにあるが、そんなに無理をしてはいない。但し、便利さや交通手段の確保は大事な要素。思わず、うーん、こういう人と結婚した人はうらやましいなと思ってしまう発言。更に、その極意のディテールが明かされる。

「掃除は昔ほど大変ではない。布団よりベッドの方が片づけなくて良いので楽。食器洗い乾燥機は少々高いが、水道水を流しっぱなしで洗うことを考えると、ランニングコストの差(例えば食器洗い機で30円ですむところが、流水では60円かかる)で、2年くらいでもとがとれてしまう。料理はよくつくるが、人生の喜びと考えてこだわっている。ペットを飼うのは大変なようだが、親の不在が多い子供の相手としては良いと思う」。「防犯はセキュリティ契約が必需品。防火はもらい火が恐いので、不燃難燃住宅とし、灯油のストーブは使わない」なるほど説得力抜群。思わず膝を打ってしまう話。

### 若い世代へのメッセージ

「一番力になったのは保育園。家の近くで良い保育園があった。保育園の保育者はプロだから、まかせておいて安心。だからこそ良い保育園が必要」というプラス志向の話だったのだが、実は会社ではこんなご苦労も…。

「共働きであることを職場ではあまり言わない。なぜなら、そのせいで会社への忠誠心が薄いなどと思われるから。子どもが病気で他の手段が駄目な時は、自分が休むが、その時は自分自身を病気だと言えば良い。」これって、日本社会の大問題なのでは?などと考えつつ、最後は次の3つの若い世代へのメッセージで、締めくくって頂き、テーマにふさわしいひとときだった。

「共働きを始めた34年前にはそれなりの工夫が必要なことも多かったが、これからはもっとやりやすくなるので、是非がんばってほしい。」「共働きをうまく実現するには、社会の道具立てやしくみだけではなく、自分の心構え、精神が大事である。」「私は本も読んだし、テレビも見たし、酒も旅行もやった。そんなに無理をしなくてもできるので、工夫をして楽に共働きを続けてほしい。」

6月22日 仕事と家庭の両立におけるコミュニティの可能性  
寺本晰子

### “地域”を我が家の延長“にわ”として使いこなす

地域活動といえば東京の下町で地域雑誌を発行している森まゆみさん。今回、中島朋子先生の対談のお相手でした。森さんは女性企業戦士として激務をこなした結果、病気になりリタイヤー。その後、地域に居続けられる翻訳、書評、何でも「もの書き」という在宅ワークの知的労働をしている。その間に森さんは結婚、出産、そして公園デビュー!そこで見たものは、仲間うちの子たちだけにおやつを配る母親達。そこで、森さんたちの放浪ははじまる。これがまち歩きの出発点だった。



森まゆみ氏

まちを見始めるとおもしろい!しかし、暮らしの伝承、地域の伝承など、まちの本、資料がまるでなかった。そこで、森さんたちは「自分達で収集・記録」し始めた。

行政界は辺境にはどこの区も手を入れない。越境して目指した公園で見た視線が面白い。「文京区、北区、荒川区、台東区の行政区界の際に住んで見ると、行政区間の施策格差がよく見える。例えば子供の喜ぶ親水公園をつくる区と、事故を怖れ水遊びを遠ざける区とか…」と森さんのまちを切り取り見せる眼線が計画者にはまぶしい。

### “しごとをつくる!”いま new な話題も

「この地(谷中・根津・千駄木)の典型的な長屋に生まれ育ちました」—ここに住み続けてきた遺伝子?ルーツは「両親は医師同士の職場(駒込病院)結婚をし、その後、母は歯科医院をそこで開業した。戦災をくぐり抜け、焼け残った長屋があったから」と働く両親の居住歴に遡っている。

現在一緒に雑誌作りをしている3人の母親たちのしごとと社会進出は、子育てを協働することで果たしている。“子供をみる人、食事を作る人と仕事をする人”役割を交代して支えあっている。3家族のコレクティブな暮らしである。食堂は“我が家のダイニング”、地域は“我が家のにわ”、3人の協働から3家族へ、そして地域までも取り込み、地域はコレクティブタウンとなり住人たちの協働が“しごととくらし”を支えている。

20世紀型労働環境がダイナミックに動いている。森さんたちは地域にある情報を掘りおこし・発信・発行(タウン誌とは違う自立出版)することを外部化して仕事をしてきた。情報も大手の専売であったが、いま“地域に密着した正確なニーズを掘りおこし、発信する”という人たちが担い手である。社会ニーズと企業のミスマッチを解消して仕事化し“しごとをつくり出した”先駆けの女性たちだった!

最後に、大塚女子アパートメント(唯一公的機関が所有する旧同潤会建物)は解体土地売却されようとしているが、1930年に働くシングル女性を支える建物があったなんてすごい!地域史、女性史からみても保存をと訴えた。

写真提供 松川淳子

ユニバーサルデザインを考える

グッドデザインはユニバーサルデザイン?

谷村 留都

バリアフリーとかユニバーサルデザインという言葉が市民権を得てきているが、私には今ひとつピンとこない。あるいは一般の人にうまく説明できないということだろうか。住宅の設計が主な活動で、この1、2年は60歳前後の施主が急増しているが、あまり高齢になることを意識して設計を依頼されることもなく、若い方達と大差ないようです。大半の施主が住宅に求められる要素は、明るく風通しのよい居室、健康的な素材の使用、家事のやりやすいプランニングをしてシンプルでしゃれたデザイン、楽しい空間構成などで。家具の選択にも付き合いますが、ここ数年北欧家具の名品を選ぶことが多い。50年以上前から作られ続けているものは流行の荒波に晒され、なお生き残っているもので、今後も飽きることなく大切にできるからでしょう。日本の伝統的な雑貨や雑器(例えば染付けのなます皿など)も時代を経て使われ方は変化しているがいろいろな用途に対応できるグッドデザインが多い。そういう意味でグッドデザインはユニバーサルデザインの一つなのではないでしょうか。

■「水彩フェスティバル」へのお誘い

江東区を中心に活動している「水彩フェスティバル実行委員会」が主催する「水彩フェスティバル」(実行委員長はUIFA JAPON 会員の須永淑子)に参加し、地域性を生かした街づくりを体験しながら考えましょう。(須永)  
開催日時:2002年9月28日(土) 10:00~16:30

開催場所:江東区扇橋3-22-2 江東区女性センター前  
行事内容:女性センターにおける展示、フラワーシップ(花船)乗船体験、降雨体験車による体験、和船・カヌー・カッター乗船体験、扇橋開門の見学等  
申し込み先:UIFA JAPON 事務局 (FAX 03-5275-7866)

■「旧同潤会大塚女子アパートメントを生かす会」に参加しませんか

1930年に建設、第二次世界大戦にも生き残り、歴史的価値を有するこの公共所有の建物が、今、壊され敷地も手放されようとしている。01年11月に建築学会から東京都へ保存要望書が提出されたのを契機に、02年1月に同潤会に関心のある方々が緊急に「旧同潤会大塚女子アパートメントを生かす会」を立ち上げ、連続シンポジウムを展開。その経過は住宅特集06、07号に掲載したのでご覧下さい。また、住宅建築の8月発行号に鈴木成文論稿や「生かす会」の月野敏雄(理科大)による保存を巡る動きなどを掲載。8月3日、3人の先駆者たち赤松良子(文京学院大教授・元文部大臣)駒尺喜美(ライファーチスト)小川信子(UIFA JAPON 会長)と植田実(ジャーナリスト)をコーディネーターとして、「住まい・女性・社会」の画期的討論。女性の社会進出、生活の拠点としての住まい、社会に於ける女性の立場など広く意見を交わし、働く女性の都市型住宅「同潤会大塚女子アパートメント」の現代的価値を語った。UIFA JAPON は共催。詳細は渡辺喜代美へ。FAX 03-3409-4822 (渡辺)

■建築家林雅子展のご案内

「建築家・林雅子」委員会(代表清家清他)主催・企画による展覧会が開催されるので、ご案内します。林雅子氏はUIFA JAPON の大切な会員のお一人でした。

東京展 9月4日(水)~15日(日) ヒルサイドフォーラム  
大阪展 9月20日(金)~10月6日(日) 大阪市立住まいのミュージアム  
シンポジウム/トークセッション

- ・8月31日(土) 16:00~  
「4人の女性建築家が語る林雅子」  
小谷部育子/木下庸子/妹島和世/貝島桃代  
中央工学校85周年記念館STEP
  - ・9月7日(土) 13:30~  
「戦後住宅の潮流と林雅子」I  
植田実(基調講演)/鈴木侑/林昌二ほか  
ヒルサイドプラザホール
  - ・9月21日(土) 13:30~  
戦後住宅の潮流と林雅子その。  
植田実(基調講演)/岡部憲明/松隈洋/林昌二ほか  
大阪市立住まいのミュージアム3階ホール
- シンポジウムは申込(先着順)制です。下記事務局まで確認ください。  
林雅子展事務局 Tel. 03-3353-2275 (設計同人内)(井出)

役員会報告

第2回 2002年5月16日(木)

出席者:小川、飯島、峯、北本、草野、栗山、正宗、松川、山田、吉田(あ)、東  
議事:・各部会報告・総会準備について  
・新役員検討  
・2002年度活動方針案の検討

第3回 2002年6月20日(木)

出席者:小川、飯島、草野、栗山、正宗、松川、峯、山田、吉田(あ)、渡辺、吉田(洋)、東  
議事:・各部会報告・総会プログラム及び担当者の設定  
・新役員案の提示・決算報告の検討

第4回 2002年7月25日(木)

出席者:小川、飯島、中野、栗山、正宗、松川、須永、山田、吉田(あ)、渡辺、飯田  
議事:・各部会報告・総会の総括  
・今年度活動の検討-10周年記念事業、事業方針  
・次回UIFA大会アンケート調査中間報告 (飯島)

■編集後記

通常総会・記念講演会・親睦会に参加して、UIFAの活動がより実感できました(安東)。中原先生から学ぶ。設計料を「しっかりと稼ぐことが出来る」ことが「組織として仕事ができる」こと、と(井出)。個々の力の集積で、違った展開の可能性の面白さを感じています(須永)。線を引いてイメージを送る→キーボードを叩いてメッセージを伝えるに変換中。よろしくお願ひ致します(中野)。2002年はUIFA JAPON10周年、新たな展開にチャレンジしよう(渡辺)。新しく6人の編集体制でスタートします。これからもニュースレターへのご協力お願ひしませぬ(編集長:田中)。

UIFA 2001  
ウィーン大会報告書  
販売のお知らせ

A4版、全126頁(うちカラー12頁)、定価2700円(送料込)、購入希望の方は、別紙申込書をFAXにて事務局までお送りください。

内装工事全般

有限会社 セブン・ホーム  
代表取締役 岡野 康 則

東京都板橋区中台1-43-2  
Phone/Fax 03-3934-8561  
携帯 090-322-52574

駐輪・駐車施設  
SC 日本サンサイクル株式会社

平置き~多段式、料金徴収方式・設計・施工・管理

東京都中央区日本橋蛸殻町1-3-5 TEL 03-3639-4911

URL <http://www.246.ne.jp/~nsc/>